



ROTARY CLUB OF KASHIWA-NISHI

第2790地区

柏西ロータリークラブ

創立:1975年11月7日 承認:1975年11月24日

会報 第1607号

第1634回 例会【2009.9.11】

会長／金 本 元 章

幹事／小 林 太 時

四つのテスト

1. 真実かどうか？
2. みんなに公平か？
3. 好意と友情を深めるか？
4. みんなのためになるかどうか？



■柏西ロータリークラブURL.<http://kashiwa-nishi-rc.com/>

■第2790地区ロータリークラブURL.<http://www.rid2790.jp/2009/>

第1634回例会 2009.9.11

- 1. 点 鐘 金本元章会長
- 1. 会長挨拶 金本元章会長
- 1. 幹事報告 小林太時幹事
- 1. 卓 話 秋山弘昭会員
- 1. 点 鐘 金本元章会長

会長報告

金 本 元 章 会長



みなさん、こんにちは。

皆様にお見せしているペットボトルは、「サントリーの烏龍茶」です。

これから、これを使って、皆さんに手品をやるために持って来たわけではありません。種も仕掛けありません、どこにでもある烏龍茶のボトルで特別のものでありません。こちらは、サントリーさんが1981年に発売を

開始した烏龍茶で、次々と新製品が発表されては消える、たいへん競争の激しい烏龍茶の業界にあって、発売以来、常に安定した売り上げを挙げているそうです。じつは毎年味が違うことをご存知ですか？ 流行の食べ物や味覚の変化を研究し、毎年変わり続けているそうです。名前は変わらず、中身を気づかれないレベルで時代に合わせて変化させている。決して、味が変わっていることをアピールしないすごさ。さすがですね。

みなさん、当クラブの「変わっていくところ」と「変わらずにいるところ」は、果たして何処でしょうか？

さて、さきほどお見せした当クラブのホームページですが、少しずつ形が整い良くなって来ているとおもいますが、作り手の視点で与えられるものでなく、見る側の視点でなくてはならないと思います。クレームでもなんでも結構です建設的なご意見を頂戴いたしております、何なりとお申し下さい。

先日の、地区の会員拡大のセミナーの講師の江崎柳節パストガバナーは、ロータリアンはそれぞれの地域の中でも極めつけの指導者集団であるにかかわらず、「Information Divide（情報提供）」の分野で、立ち遅れているといったお話がありました。今後も、RI・地区・クラブの最新情報をリアルタイムで発信し、レスポンスの良い組織づくりの一躍に担うホームページにしていきたいと思います。どうか、機会があれば是非お目を通して下さい。

昨日、2790地区において、国際奉仕部門委員長、社会奉仕委員長セミナーが、千葉のホテル ザ・マンハッタンで開催されました、当クラブから、奉仕プロジェクト委員長の安川さん、国際奉仕委員長の日暮さん、社会奉仕委員長の杉山にご出席をいただきました、お忙しい中ありがとうございました。

■例会日／金曜日 12:30~13:30

■例会場／ザ・クレストホテル柏
〒277-0842 柏市末広町14-1

TEL.04-7146-1111 FAX.04-7146-2100

■事務所／〒277-0011 柏市東上町7-18

柏商工会議所会館 505

TEL.04-7162-2323 FAX.04-7166-8282

E-mail : kashiwanishi@io.ocn.ne.jp

卓話

秋山弘昭 会員



その発祥は江戸時代に遡る。高島屋の初代、飯田新七は福井県敦賀の生まれである。11歳で京都に出て、呉服商で奉公を始めた。1828年、25歳になった新七は、京都烏丸通り松原上ル西側で米穀商を営む高島屋、飯田儀兵衛の長女秀と結婚、婿養子となった。この高島屋は近江国高島郡南新保村（現・滋賀県高島市）の出身で、屋号はその地名にちなんだものだった。

■1831年（天保2年）初代飯田新七が京都烏丸にて創業

新七は米屋の経験はないため、1831年1月に分家という形で近くに家を借り、当時の小規模な呉服商は、古着と木綿を扱っていたことから、妻と二人で古着と木綿の商いを始めた。屋号は本家と同じ「たかしまや」。現在の高島屋と同じ「高」の字を〇で囲んだマークと、「たかしまや」と白く染め抜かれたのれんを掲げた店は、間口三間（3.6メートル）あまりの小さな店だった。現在の高島屋は、この夫婦二人きりのこじんまりとした店からスタートした。高島屋が創業した1831年は、60年に1度めぐってくる辛卯年にあたった。また伊勢神宮ご造営の年でもあったため、この時は本当に大勢の人がお伊勢参りをした。これを「おかげ参り」といい、この時期に創業したことにちなみ、商いの上での重要な精神を「おかげにてやすうり」と定めた。これには「利を薄くして売る」という意味が込められており、十の数字の符丁とした。また符丁とともに高島屋が現在まで大切に、守ってきたものが、初代新七が制定した四綱領の店是だ。

1、確実なる品を廉価にて販売し、自他の利益を図るべし…商いの基本は確かな品物を安く売ること

あり、自己の利益だけを考えるのではなく、同時にお客様の利益を考えなければならない、という経営方針である。

- 2、正札掛値なし…当時、多くの商人は駆け引きをするのが当たり前だった。しかし、初代新七はそれに倣わずこの方針を定めた。
- 3、商品の良否は、明らかに之を客に告げ、一点の虚偽あるべからず…商品を販売する時には、値段よりもむしろ値打ちのある商品を提供することが大切であり、その良し悪しを十分に納得してもらうこと。
- 4、顧客の待遇を平等にし、苟くも貧富貴賤に依りて差等を附すべからず…商いでは、人を差別したり貧富の差によって人を評価してはならない、ということを厳しく戒めている。

■1864年（元治元年）蛤御門の変で店舗消失。

勤皇と佐幕の争いが続いていた京都では、1864年に蛤御門の変が勃発。薩長が衝突し、洛中は一面火の海となった。この大火によって高島屋も全焼し、創業以来の危機を迎えた。新兵衛と2代目新七は兵火が迫りつつあることを予想していた。商品と家財道具を近くの本圀寺に運び込んだ。土蔵の窓には目張りをし、さらに風呂桶を据えて、これに水を張って火が回らないようにしておいた。二人の機知と用意周到さによって、商品は兵火から守られたのである。そのため、蛤御門の変から1週間後には、焼け跡で露店を開くことができた。高島屋の露店は人々から喜ばれ大繁盛であった。このような時世は、商人にとっては稼ぎ時ともいえる。一攫千金を夢見て粗悪品を売りつける商人も多かった。しかしその中であって、高島屋は織屋、染屋と盟約を交わして良い品だけを安く売った。そして商人道に背く業者とは、以後の付き合いを断ったのである。それが高島屋を大きく飛躍させるきっかけとなった。

■1882年（明治15年）刺繍・ビロード友禅・綴錦の美術作品制作のため岸竹堂・今尾景年などの画家を招く。

外国人との取引が次第に多くなるに

つれて、外国人向け商品の必要性を感じて、縫師を雇い入れて刺繍の制作を始めた。1882年には岸竹堂、村上嘉兵衛など当代一流の画家、友禅師を選んで下絵を描かせ、刺繍、ビロード友禅、綴れ錦などを制作、加工して壁掛、屏風、衝立など日本固有の美術工芸品をつくった。また、美術工芸品をつくる傍ら、1879年より毎年京都府博覧会に染物品を出品し、何度も受賞の栄に輝いた。

■1888年（明治21年）スペインバルセロナ万国博で受賞。

1888年にはスペイン・バルセロナ万国博覧会に刺繍を出品し、銀牌を受賞した。

■1896年（明治29年）京都南店にショーウインドーを設置。

1896年に京都南店で設置したショーウインドーを、不要になった部屋を改装し、令嬢のマネキンに生け花をあしらった陳列した。

■1898年（明治31年）大阪店開店、京都たかしまや呉服店飯田新七大阪支店と称す。百貨店初の野外大型広告を出す。

1898年に大阪心齋橋店の開店、1900年に東京店の開店。心齋橋店の開店に際しては、帆掛け舟形の大看板を梅田や京都・掛川、名古屋、九州路にまで設置。高島屋のマークを入れたこの看板は、業界初の屋外広告として注目された。

■1911年（明治14年）美術部創設。

美術部創設のきっかけは、1909年に開催した「現代名家百幅畫會」だった。飯田家所蔵の絵画などをお得意先にご覧いただくということになり開催されたこの美術展は、個人の店で絵画展を開催した先駆けとなった。「作品を譲ってほしい」という人もいたため、美術部を創設して商売に結びつけようということになったのである。

■1919年（大正8年）株式会社高島屋呉服店設立（資本金300万円）

1919年には百貨店部門が「株式会社高島屋呉服店」へと発展した。

■1922年（大正11年）大阪長堀橋に、鉄筋コンクリート地下1階、

地上7階建て（約10,000㎡）新店舗開設。

大阪長堀店の開店（1922年）、百貨店では我が国初の全館冷暖房設備を備えた大阪南海店の開店（1932年に全館オープン）、手狭になった東京店に代わる新店舗を東京日本橋に開店（1933年）するなど、大店舗による本格的な百貨店経営に乗り出した時代でもあった。明治時代の末頃から、日本では洋風化が進んでいった。この時代、業界では多くの呉服店が個人経営から会社組織へと組織が改められたのと同時に、呉服店から百貨店へと変容を遂げていったことも大きな特徴である。

■1923年（大正12年）関東大震災。

1923年9月1日関東地方を大震災が襲った。南伝馬町の店舗跡には、木造平屋建ての借り営業所を建築、10月16日に竣工した。そして旧店舗筋向いの千代田館が修理されると、その2階を借り入れて旧店舗跡の仮営業所と合わせて開業した。ガラスのないショーウィンドーに雑貨、台所用用品、食料品などの特価品を並べて、ウィンドーマーケットという新しい販売方式を取った。2階には呉服などを並べて、良品廉価の販売を行い、震災からの復興を果たした。

営業再開に際しては、屋上から「皆様の高島屋」という大垂幕を吊るしたり、アドバルーンを上げたりした。さらに新聞4ページ分の大きな模造紙に、東京十五新聞の題字や見出しをつけ、「帝都復興第一線に立ちて」「ニュースの活躍とデパートメントストアの奉仕」と長特大の文字で記し、「お互いに新聞を読みましょう。お買物は高島屋で」と書き添えた。これは、市民が流言飛語と不安にかられないようにとの思いから、新聞記事をスクラップしたニュース性のあるポスターを作成し、安心感と高島屋の健在を伝えたものだった。これは大好評を呼び、後年ニューヨークの世界広告大会で名誉大賞を受賞した。

■1933年（昭和8年）東京日本橋店新築開店。

1933年3月、日本橋店（現東京店）が自生館として竣工

■1950年（昭和25年）日本橋高島屋 屋上に小象「高子ちゃん」登場。

1950年には配給統制が撤廃され、百貨店の売場体制も戦前の状況に回復した。「高島屋に人を集めるために、何かいいアイデアはないか」という話題になり、「象を連れてきたらどうだろう」提案があった。下関に入港後、東京に着いた小象は、トラックで銀座をパレードして高島屋に到着。高島屋にちなんで「高子」と名づけられた象を見るために、初日には17万人の見物客が屋上に集まった。高島屋はアメリカの雑誌にまで「象のいる百貨店」として紹介された。

■1952年（昭和27年）包装紙のデザインにバラを採用。

高島屋の象徴にもなっているバラの花。これが高島屋のシンボルマークとなったのは、1952年、飯田慶三が4代目社長に就任した年だ。彼は卓越した画才の持ち主であり、静物の中でも花を好みバラの花もよく描いていた。そのためバラの花をシンボルマークにすることを考えついたのである。

■1956年（昭和31年）イタリアンフェアを各店で開催。

1956年から通産省（当時）は、我が国の百貨店が欧米の百貨店と提携してデザインの研究を行ったり、商品を同額ずつ交換して展示販売ができるという、外国百貨店との商品交換展示制度を実施した。そこで高島屋はこの制度をいち早く利用して、その年にイタリアン・フェアを開催した。この商品交換展示制度は、日本の百貨店にとって外国のデザイナーとの提携や商品の直輸入に取り組むきっかけとなった。外国百貨店との商品交流は、百貨店各社にとって海外進出を具体的に検討する引き金にもなったのである。

■1958年（昭和33年）ニューヨーク高島屋オープン。

1958年、世界一の小売店街といわれるニューヨークの6番街に「ニューヨーク高島屋」をオープンした。

高島屋のマスコット人形は、1959年にクリスマスセールの装飾用に誕生した「ハッピーちゃん」が最初で

ある。フードつきマントを羽織った赤と緑の2体の妖精であり、一躍人気が集まった。ローズちゃん人形としてのキャラクター的要素を持ち始めたのは、1962年のことである。この時は聖歌隊の人形として登場した。その後は、中元・歳暮期にそれぞれのキャンペーンテーマや流行に応じて製作された。

■1973年（昭和48年）柏店開店。

1970年代は核家族化が進み、人口の大都市集中と「ドーナツ化現象」といわれる郊外への人口分散が同時に進展したため、都市交通網の整備やマイカーの普及も急速に進展した。首都圏では、都心から30キロメートルの扇形上にある交通の要所に、商圏が重ならないように店舗を配置し、東京店を中心とした多店舗展開構想が検討された。

1970年代国内で9店舗をオープンしている。関東地区では、立川店、大宮店、柏店、高崎店、津田沼店（現在では閉店）、関西地区では岡山店、和歌山店、泉北店、岐阜店を出店した。

幹事報告

小林太時 幹事

1. 鈴木桂三会員
米山特別寄付「第2回米山功労者（200,000円）マルチプル」
2. 例会変更のお知らせ
*松戸西RC：9月30日（木）は10月3日（土）夜間移動
例会「月見の宴」に変更
3. 受信
《クラブ会報》
松戸中央 RC
《クラブ活動計画書》
松戸中央 RC・流山中央 RC
4. 新会員名簿が出来ました。

委員会報告・その他

■会長よりホームページの紹介

お食事中ですがホームページについて少々説明させていただきます。

毎回例会終了後ホームページ上で例会の会報が閲覧できます。

それと先日ガバナー公式訪問の中で小林幹事の方からそれぞれのグループの討論会の報告も掲載されてます。ぜひご覧ください。

本年度はできる限りWeb上で情報提供をして行くよう努力します。

時間があれば是非お目通しをしていただきたいと思います。

■委員会報告

森市 直樹 会員

みなさんこんにちは。

地区大会記念ゴルフ実行委員長長の川和委員長に変わり副実行委員長長の森市が近況報告致します。

ゴルフの締め切りは8月31日だったのですが、定員200名を募集しました結果8月28日をもって定員をオーバーしまして、223名の参加になりました。

当日お手伝いして下さいます方は幹事が13名、柏西12名10分区分で13名、事務局で4名、ロートアクト合計43名のスタッフです。柏西クラブ会員の方は当日移動例会にでただけで結構です。よろしくお願ひ致します。

■田代充会員より

はじめに、ロータリークラブについて簡単に説明しましょう。

ひと言で言えば奉仕クラブ組織ですが、自分の職業を通じて世界の人々へ奉仕することに主眼が置かれています。ロータリーとは「人道的な奉仕を行い、あらゆる職業において高度の道徳的水準を守ることを奨励し、かつ世界における親睦と平和の確立に寄与することを旨とした実業人及

び専門職業人が世界的に結び合った団体である」と定義されています。

発祥はシカゴという大都会の中で孤独と疎外感に悩むポールハリスという青年弁護士が、1905年2月23日、3人の仲間とともに「実業人が友愛気持ちをもって親しみあい、仕事のうえでの知り合いの輪を広げていくために定期的に集まる会を作る」というアイデアからロータリーが生まれました。現在200以上の国と地域の120万人の地域社会事業専門職務のリーダー、そして地域社会のリーダーが世界中で人道奉仕を実践し友好と平和を築いています。

私達、国際ロータリー2790地区の柏西ロータリークラブと台湾の国際ロータリー3460地区の台中港東南扶輪社は姉妹クラブを締結して28年間、国際親善親睦活動に力を注ぎお互いの文化交流を通じて世界における親睦と平和の確立に寄与してまいりました。しかし、本年残念なことに国際交流が締結された時の会長劉建止先生、あとを追いかけるように染谷正三先生がご高齢でご逝去されました。両クラブは悲しみに包まれましたが、私達社友は悲しみを乗り越えてお二人の遺志を引きついで、今後も未来永劫に姉妹クラブとして国際親睦文化交流を継続し発展していくことを会員相互に確認し友好の輪を広げていくことが約束されました。

台湾では90歳をこえてご逝去されると赤い着衣を着て仙人になるということでも悲しみを引きずっていることはありません。「お母さん・お父さん・ご家族」を大切に台湾で、二人の仙人は空の高みから私達の国際親善と共同社会事業の発展を見守ってくれることでしょう。日本人としては、複雑な葛藤がありますが今回面観と子供との会話を「ねえおかあさ

ん・ねえお父さん」と言う問いかけで気持ちを和らげてくれる心温まる詩集をまとめてみました。

台湾の元米山奨学生が教材としてもわかり易い詩を抜粋して翻訳した詩集です。

皆様のお役にたてばこの上ない幸せとなるでしょう。

◆今日のお料理◆

- 秋鮭のマリネ香草サラダとともに
- 牛肉のトマト煮温野菜添え
- お楽しみデザート
- パン(バケット1、ロールパン1)
- コーヒー



😊 BOX ありがとう!

★写真ありがとう!

松本ユミ、秋元慶一、田代充会員

★欠席ごめんね!

根来富士雄会員

★八月もろもろの祝い事!

杉山智会員

✎ 出席報告

会員数	55名
欠席者	7名
河西、佐藤、高田、田中、日暮(誠)、富士川、渡邊	
出席率	87.27%

●次回は移動例会で9月28日(月)です。

クラブ会報委員/榊 かおり・水野 晋治・富田 正雄
渡邊 雅志・田代 健一・秋山 弘昭

欠席報告は、水曜日の正午まで

※食事の無駄をなくする為に協力して下さい。

SAA 田中 一成まで: 090-6955-1920